

アスベスト尼崎の会が 18 回総会を開催

「クボタの犠牲者が 6 6 6 人。被害者の掘り起こしと救済に全力を」

「アスベスト被害からいのちと健康を守る尼崎の会」は 4 月 19 日、尼崎市立小田南生涯学習プラザで第 18 回総会を開き、37 人が参加しました。

会長の潮江診療所・船越正信所長は、「クボタショックから 20 年になろうとしている。尼崎におけるアスベストによる被害は拡大の一途をたどっており、クボタ旧神崎工場周辺住民・クボタ職員合わせて 666 人の犠牲者が出ている。しかし、市民の関心が薄れてきていると感じている。情報発信と相談活動を強めよう」とあいさつしました。

総会議案を提案した粕川實則事務局長は、昨年 3 月に尼崎市が開いた「アスベストセミナー」でのアスベスト被害者の疫学調査結果報告会のデータを紹介。それによると、①尼崎市民の中皮腫死亡比は全国よりも高い(女性 10.4 倍、男性 4.6 倍。労災認定者を除く)、②特に 1969 年までに尼崎市民になった人のうち、アスベスト粉塵を大量に排出したクボタ旧神崎工場に近かった小田地区における中皮腫死亡比が高い(女性 68.6 倍、男性 21.1 倍)ことなどが明らかになっていることなどを報告し、「こうした甚大な被害の原因は、(株)クボタが健康被害を把握していたにもかかわらず 1954 年から 41 年間にわたって大量のアスベストを使用し続けたことと、そうした企業を後押しした国の産業政策にある」と指摘。事務所で相談を待つだけでなく、「健康・法律相談会」をリスクの高い地域で開催することなど、今年度の重点活動を提案しました。

多くの市民がアスベスト関連疾患のリスクを負っていることが明らかになったことを受けて、討論では、「毎年 1 回以上アスベスト検診を受診することを市民によびかけることが重要」などとの意見が出されました。

アスベストによる肺がんの認定基準の見直しを求めることなどを含め、総会議案を全会一致で確認しました。